

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Since 2007



あいち海上の森センターへの
来館者達です。
カマキリ、トンボ、クワガタ…。
次は誰がやってくるのかな??

特集 海上の森はいま

あいち海上の森センター来館者 10 万人達成
平成 22 年度期あいち海上の森大学が開校



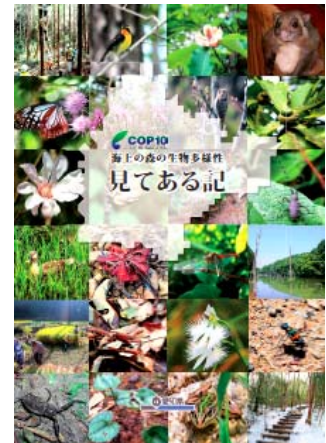
この人!「ホタルのために汗をかく」山口ホタルの会 会長 山田勝さん

海上の森の発行物を紹介します

「海上の森の生物多様性 見てある記」ができました

あいち海上の森センターでは、海上の森の生物多様性を解説したパンフレット、「海上の森の生物多様性 見てある記」を作成しました。A4 サイズで表紙を合わせて 12 ページ、海上の森の生物多様性について、地質・森林・湿地・水辺・田畑などをキーワードに解説しています。また、最後の 2 ページには、4 つの観察コースを地図上に示した「見てある記マップ」を掲載、海上の森を散策するのにとても便利です。

この「見てある記」は、体験学習プログラムの「生物多様性セミナー」と「海上の森生物多様性ツアー」の参加者に差し上げますので、ぜひ御参加ください。



特集 海上の森はいま

あいち海上の森センター来館者 10万人を達成しました

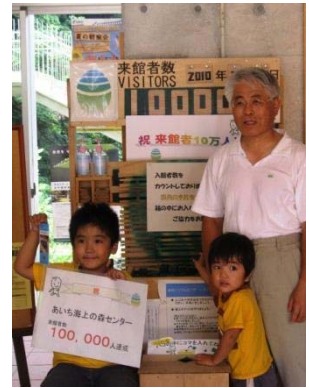
あいち海上の森センターは平成 18 年 9 月に愛・地球博の瀬戸会場を改修してオープンしたもので、まもなく丸 4 年となりますが、平成 22 年 7 月 8 日（木）に、来館者が 10 万人を超えました。

10 万人目の来館者となったのは、千葉県船橋市の荒川大翔（ひろと）くん（5 歳）で、弟の大智（だいち）くん（2 歳）とおじいさんの荒川哲夫さん（瀬戸市）と一緒に来館されました。3 人には、10 万人目の記念品として、ムササビの貯金箱、名誉センター長であるマリ・クリスティーンさんの著書「お互い様のボランティア」（サイン入り）、クリアファイルを贈呈しました。

大翔くんと大智くんの兄弟は千葉から瀬戸市のおじいさんの家に来ていたそうで、哲夫さんは、「2 人を自然に触れさせたいと思い、センターに

連れてきたけれど、まさか自分たちが 10 万人目になるとは思はなかったのでびっくり」「海上の森へは自分はよく来ているが、大翔は 2 回目、大智は初めて」などと話してくださり、笑顔で記念撮影に応じてくださいました。

また、この 3 人に続く来館者 10 組の方々にも、ムササビのストラップ、名誉センター長のマリ・クリスティーンさんの著書「お互い様のボランティア」（サイン入り）と、クリアファイル又は缶バッジを贈呈しました。



この人！「ホタルのために汗をかく」山口ホタルの会 会長 山田勝さん

私は生まれてから 68 年、瀬戸市の山口に住んでいます。今のあいち海上の森センターから 1km ほどに田んぼがあったので、子供のころからこのあたりでは良く遊んでいました。夏は川遊び、秋は「ズンボ」や「アケビ」など木の実取り。冬はツタを使った「ターザン」ごっこ。その頃は、山口のいたるところにホタルがいました。

ところが学校を卒業し社会人で忙しくなり、ホタルのことも忘れていた平成の初めに「吉野町にゲンジボタルがいる」ことが分かりました。その頃は山口地域まちづくり協議会が発足して間もなくで、早速、保護活動をするようになりました。でも何をしたらいいのかわかりません。本格的に保護活動を始める前に小牧市の大山川や足助に見学に行き、活動のヒントをいただきました。また、万博開催の話が浮上し、環境アセスの関係で、当時京大助教授の遊磨正秀先生と知り合い、ホタル保護には「きれいな水」「羽化後の雑草」「カワナ」の 3 点に注意することを助言いただきました。

山口ホタルの会では、活動のコンセプトを「自然のままホタルを増やす」に決め、最近各地で行われている「ホタルの養殖」はしないことにしています。

以来、約 15 年。山口ホタルの会の主な活動は、草刈りとホタルの発生数調査です。年間 4～5 回の草刈り。とりわけ農家にお申し度い 5 月から伸ばしておいた雑草を 7 月下旬に刈る作業は梅雨明け後の真夏の太陽の下で本当に辛いものですが地元の皆さん、山口まちづくりの皆さんにもお願いしつつ汗を流しています。

生まれ育ったこの山口も少しずつ都市化が進んでいますが、海上の森とホタルの住む環境が変わらないようこれからも微力ですが、注いでいきますので皆さんもよろしくお祈りします。

プロフィール 昭和 17 年生まれ 68 歳。山口地域まちづくり協議会に発足から参加。同協議会コミュニティ部会（第 3 部会）部会長、同協議会副会長。山口ホタルの会会長 7 年。



平成22年度期あいち海上の森大学が開校～COP10も学ぼう

平成 22 年度期「あいち海上の森大学」が7月11日（日）に開校しました。

今年度の大学は、常設コースの森林再生コース、国際交流コースに加え、新たに企業の社会貢献活動による森林整備活動の推進のための人材を養成する企業活動コースを新設し、全体で37名の入校生でスタートしました。今秋開催される COP10 に向け、生物多様性や会議の意義なども学ぶ講座も取り入れ、また、国際交流コース7名の外国人の入校生との交流を深めながら、多彩な講師陣による講座を開催していくこととしております。

開校式では、開校記念として「川から教えてもらったこと」をテーマに、豊田市出身の作家でサークル「矢作川水族館」館長でもある「阿部夏丸」氏の講演があり、阿部氏は子どもたちとの川遊びの様子を紹介しながら、川に草が生えるようにするなどの取り組みを紹介し、「環境さえ整えば必ず

生き物は帰ってくる」ので、「まずは川に入ること遊んで川を好きになれ」など貴重なお話をさせていただきました。

入校生の皆さんが、今年度期を無事修了され、今後それぞれの立場や地域の中で、また、生活や職場の中で、循環型社会づくりを担うリーダーとして御活躍されることを期待しております。



受講生、来賓・主催者とともに



記念講演
阿部夏丸氏

センター職員の随想リレー

かたりべのひと言

一海上の森での出来事一

私は昨年4月からあいち海上の森センターで仕事をしている。ここでの出来事で一番思い出すのが「丸太橋の補修」一篠田池へ向かう歩道をチェーンソー担いで黙々と1km歩いて現場に到着し、近くの杉の木を切り倒し、その木を番線で締め、かすがいで固定し丸太橋を造った。その時のしんどさ、切った木を4人で運んだその重さたるや・・・この職場ではとても続かないだろうと思ったものの、完成後の、何かを成し遂げた充実感には格別で帰り道は実に足取りが軽かったこと。その他では「物見山でギフチョウを見たこと」、「遊歩施設でムササビのくるっとした目で見つめられたこと」。

このように何かを体験するという事は、いつまでも記憶にとどまるものだ。海上の森センターでは年間62日間の体験学習プログラムを組んでおり、皆様もよい思い出づくりのためにも、ぜひ参加してください。(S・Y)

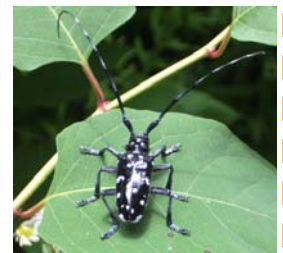
森のなかま

ゴマダラカマキリ 体長25～35mmほどで細長く黒い体をしています。特に前翅は光沢のある黒色に白い斑点が並んでいてよく目立つことが、名前の由来とされています。長い触角、大きな顎、がっしりした脚が特徴で、脚や腹部は青色の毛で覆われています。

昆虫採集では人気がありますが、食樹が非常に幅広いのが特徴で柑橘類、クワなどのほか、都市部の街路樹のプラタナスを食害することもあるようです。

交尾を終えたメスは生木の樹皮をかじって産卵し、幼虫は生木の材部を食べて成長します。蛹を経て羽化した成虫は、木の幹に丸い穴を開け、木の外に出ています。

海上の森でも成虫は7～8月頃に出現し、昼夜を問わず活動しています。



展示の目玉

「声が聞こえる！カエルハンドブック」

皆さんは何種類ぐらいのカエルをみたことがありますか？カエルはぴょんぴょん動いてしまうし、葉っぱや石の影に隠れてしまうので、ゲロゲロ、クワックワウと鳴き声は聞こえても、図鑑と比較して種を同定しにくいこともあります。

そんな時に心強いのがこの「声が聞こえる！カエルハンドブック」です。いろいろな種類のカエルの写真が載っているだけでなく、カエルのコード（アイコン）をU-SPEAKというペン型の機械でタッチすれば、「クッククック」「ケレレレレ」「コロコロロ」など種ごとにいろんな鳴き声がきこえてきます。

展示室には「声が聞こえる！野鳥図鑑」もありますので、ぜひどちらも試してみてください。



その他のお知らせ

フィールドワーク「生物多様性体感ツアー」

愛知万博の理念継承事業として平成19年度から毎年実施している「人と自然の共生国際フォーラム」。今年はCOP10の開催を機に、森林・里山を知り、その価値を見直すことで、生物多様性の保全・活用に関わる地域での取組を広く発信していきたいと考えており、以下のとおりフィールドワークを開催します。

- ・「海上の森」生物多様性体感ツアー（平成22年9月12日 海上の森入口駐車場集合）
- ・「知多半島」生物多様性体感ツアー（平成22年9月25日 名鉄知多半田駅集合）

このフィールドワークでの体験を、10月に開催されるフォーラムでの議論につなげていきますので、ぜひご参加ください。（平成22年9月3日までに事前申込。詳しくはHP・チラシにて）

イベント・参加者募集 もりもりの秋 集まれ！

イベント名	開催日	定員	募集期間	対象
★生物多様性セミナー	10/10（日）	30名	8/10-9/26	中学生以上
♪調査学習会（海上の森の秋のキノコ）	10/17（日）	50名	8/17-10/3	小学生以上、小学生は保護者同伴
★森の楽校（どんぐり森であそぼう） ※幼児（3～6歳）とその保護者を対象とした「森のようちえん」も同時開催（定員20名）	11/6（土）	30名	9/6-10/23	小学生以上、小学生は保護者同伴
♪調査学習会（海上の森の動物）	11/3（祝）	30名	9/3-10/20	小学生以上、小学生は保護者同伴
♪海上の生物多様性ツアー	10/24（日）	50名	8/24-10/10	小学生以上、小学生は保護者同伴
♪里山のものづくり（間伐材を使った工作）	12/11（土）	30名	10/11-11/27	小学生以上、小学生は保護者同伴
★森の楽校（カラフル森でつくろう） ※幼児（3～6歳）とその保護者を対象とした「森のようちえん」も同時開催（定員20名）	12/4（土）	30名	11/4-11/20	小学生以上、小学生は保護者同伴
《応募方法》 官製はがき、FAXまたはE-mailに①イベント名②住所③氏名④年齢⑤電話番号を記入し、申込期限（当日消印有効）までに、下記の申込先へお申し込みください。申込多数の場合は、抽選により決定し結果を通知します。				
《申込先》 ★印のイベント…あいち海上の森センター（〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1、TEL:0561-86-0606、FAX:0561-85-1841、E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp） ♪印のイベント…海上の森の会（〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1「あいち海上の森センター」内「海上の森の会」事務局 TEL/FAX:0561-21-9298、E-mail: morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp）				

《予告》第4回人と自然の共生国際フォーラム

日時：10月16日（土）10:00～16:00、17日（日）10:00～17:40

場所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）

詳細については、決まり次第ホームページ等でお知らせします。

編集後記：7月中旬の豪雨が過ぎ、梅雨が明けると同時に本格的な夏がやってきました。

強い日差しが降り注ぐ暑い日の山歩きや屋外作業は大変ですが、サテライト（かたりべの家）に入ると、空気が少しひんやりとしているので、ホッと一息つくことができました。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 平成22年8月15日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL 0561-86-0606 FAX 0561-85-1841

E-mail kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>

